

学校運営

1 本校の教育課題

近年、職員集団による一丸となった取組によって、生活面での落ち着き、学習規律や集団行動面での節度が見られるようになってきた。また、教師が児童の話を傾聴することによって、児童と教師との信頼関係も高まってきている。

一方、次のような課題意識を職員同士で共有している。

(1) 自己有用感のはぐくみ

人なつっこく素直な児童が多い反面、自己には甘い但他者には厳しい児童も目に付き、それがトラブルにつながることもある。背景には、これまでの育ちの中で自己有用感がなかなか高まらなかったことがある。

(2) 思考力・学習意欲を核とした学力の向上と認め合う教室風土の醸成

学力面でも課題が大きい。C評価の児童の底上げのみならず、B評価の児童のレベルアップを図る必要がある。特に、学習意欲を高めるために、思考・判断・表現を促す学びがいのある場、学び合う場を設定し、確かな学力の向上と共に認め合う教室風土の醸成一層図っていく必要がある。

(3) いいお手本からの触発・啓発等による志の萌芽

また、いいお手本としての先輩や職業人等からの触発・啓発によって、憧れ意識を高め、児童自身の志を高めていく必要がある。人間は、本物の真善美に出会い、心を動かされたときにこそ、志を高めるものである。

学習指導・学級経営、異学年交流活動等の全教育活動をとおして、自己有用感、並びに、学力を高めたい。そして、ふるさと紫雲寺を心の拠りどころとし、愛するふるさとや愛する人たちのために貢献しようとする意欲、即ち、志をはぐくみたい。そのために、次の2つを中核にした学校運営を進めていく。

① **新発田市授業スタンダード(関わり・UDL等)を踏まえた授業づくり【知育の柱】**

② **憧れ意識・自己有用感のはぐくみを意図した異学年交流活動等【徳育の柱】**

それは、新発田市の学校教育の指針「子どもが輝く新発田の教育～子どもの夢や希望をはぐくむ教育～」そのものに他ならない。

2 学校経営の基本方針

(1) 職員集団

① 「教師が変われば子どもが変わる。」「学び続ける教師こそ子どもの成長を支えることができる。」を合い言葉に、職員集団が一丸となって教育課題解決に果敢に挑戦する。焦らず、諦めず、粘り強く、そして、楽しく。

そのために、事後の補充や後始末に追われるよりも、事前の準備や教材研究等に力を注ぐと共に、小さな工夫を大切にされた教育活動を展開する。

また、生徒指導上の諸問題に対しては、職員間の情報共有と即時対応(その日あったことはその日のうちに。不可能ならば翌日にすべてを。)に努める。

② 個々の指導力や教師力向上に向けて、様々な刺激を受ける研修機会を設定したり職員相互が関与し合ったりする。(教師自身が「井の中の蛙」にならない。)

また、全体の組織力の向上のために、管理職や各主任のマネジメント能力の向上を図る。

③ グランドデザインや学校評価と教員評価との関連を図りながら、職員一人一人がキャリアアップを図る。

(2) 大人集団

① 「大人が変われば子どもが変わる。」「大人同士の絆と成長こそが子どもの成長を支える。」を合い言葉に、職員集団が一丸となるだけでなく、学校が、家庭・地域、中学校区の小中学校・保育園、市教委等の関係諸機関との連携を深め、児童を取り巻く大人集団が総掛かりで教育課題解決に取り組む上での要となる。

特に、保護者との信頼関係づくりに心を配り、「かかわる同和教育」の視点で児童理解と家庭理解を深める。(生徒指導上の諸問題が起きたときは、誤解や不安を与えないように、随時、事実と学校としての対応を保護者に連絡し続ける。)

また、学習指導においても生徒指導においても、外部の人材や関係諸機関の助けを借り、その専門性を生かすことを躊躇しない。

② ①のために、大人同士の交流等の機会は極力スリム化しない。

3 教育目標

ともにのびよう

① 支え合い・刺激し合い

人間はお互いに支え合って生きている。さらに、刺激し合いながら成長し続けている。

② 自立 × 協働 = 創造

しかし、21世紀は、先行き不透明で、様々な問題が待ち受けている。その解決のためには、仲間の創意と総力を結集していくことが何よりも重要である。子どもも大人も、様々な課題に対して、自ら問題意識をもち、その解決過程で、妥協ではなく、「Win Win」の精神で、よりよいものを創造していく経験を積み、そのよさを実感していく必要がある。

③ 「ありがとう」の連鎖、プラスのイオンの充満

そして、子ども・大人共々、悩みながら、支え合いながら新たなものを創造していくその過程で、「ありがとう」の言葉や心が連鎖し、プラスのイオンあふれる学校を作る。

4 重点目標

- | | |
|--------|---|
| (1) 知育 | 問い 目的
疑問やめあてをもち、仲間とともに考えることのおもしろさを味わいながら、学力を伸ばす子 |
| (2) 徳育 | 言葉遣いに気を配り、ルール・マナーを大切にしながら、役立つことを喜びとする子 |
| (3) 体育 | 運動に親しみ、生活習慣の改善・向上を図りながら、健康的な生活を送る子 |

5 努力目標

(1) 知育部門

- ① 授業の充実、授業の質の向上が第一である。外部・内部からの刺激を受けながら教材研究・授業準備に尽力し、視点を明確にした授業改善・授業改革を図る。

----- 新発田市授業スタンダードと関連付けた授業改善・授業改革の視点 -----	
ア	ねらい（指導目標）の明確化・焦点化……………指導前（構想時）
イ	ねらい達成につながり、児童が解決意欲をもつ魅力的な学習課題（めあて）の設定
ウ	自他のずれを生かした、学び合い（関わり合い）のコーディネート
エ	学習課題（めあて）に整合・正対したまとめの言語化（表現すること）
オ	まとめを生かして類題等に取り組みせ、習熟を図ること
カ	自らの学びや学び合いの成果と課題を自覚し、今後の方向性を見据える振り返り * 構造的な板書と様々な場面での視覚的な支援（視覚化・可視化・動作化）
キ	家庭学習につながる、練習問題や発展課題等の提示……………家庭学習への誘い
ク	振り返りの記述内容や類題の出来具合等からの素早く確かなみとり……………指導後（評価時）

課題を発見し、その解決に向けた、深まりのある、主体的・協働的な問題解決学習の中で、考えるおもしろさを味わわせながら（思考力・判断力・表現力等を発揮させながら）、学習意欲を高め、確かな知識・技能に結びつける。

また、問題解決過程の協働（学び合い・関わり合い）場面で、認め合う教室風土を醸成し、充実感、所属感・連帯感、自己有用感が高まるように配慮する。

- ② 「食とみどりのしばたっ子」プラン事業、言語感覚・表現力を高める日本語教育の趣旨を生かした取組を推進する。
- ③ 高学年での英語教科化、中学年での外国語活動の導入等を見据え、実践しながら、その準備を進める。

(2) 徳育部門

- ① 異学年交流活動において自己有用感や憧れ意識を高めるような事前指導・事後指導に意を用いる。
- ② めあてに向かって挑戦させる過程で、認め合い高め合う学級づくりに努める。
- ③ 道徳の教科化を見据え、真善美に触れさせる道徳の時間の実践を積みながら、その準備を進める。
- ④ 保護者との連携や児童理解を深めながら、「かかわる同和教育」を推進する。
- ⑤ 言葉遣いやルール・マナー、生活態度・規範意識等の生活指導については、生活月目標を設定し、児童会活動等を生かした目標共有・実践・評価を行うと共に、心や思いのこもった教師の語りを大切にする。
- ⑥ 学校いじめ防止基本方針の見直しを図り、その実効性を高めながら、いじめ・不登校の早期発見・即時対応に努める。

(3) 体育部門

- ① 体育授業の工夫や運動環境の整備等によって、運動好きな児童を育てる。
- ② 保護者と連携しながら、生活習慣の改善を図る活動を推進すると共に、保健指導の工夫を図る。
- ③ 睡眠を初め、基本的な生活習慣の改善を図る意義について、保護者への啓発を図る。

★ 各部門を貫くキャリア教育等

- ① 各教科等でいいお手本となる外部講師（地域人材等）を招聘し、ねらいに沿いながら、その生き方から触発・啓発される機会を意識的に設定する。
- ② 対人関係づくりのためにも、場に応じた言葉遣いや聞き方の指導を励行すると共に、教師自身が聞き手を魅了する話し手になるように努力する。